


町政に対するもの①（総務産業常任委員会で調査、検討）

質疑、意見提言等	調査、検討結果
町の災害負担は一般財源で7億円以上だが、どうなのか。	台風10号災害に係る財政見通しでは、地方債と一般財源等の町負担額は1,452,111千円になるが、地方交付税措置見込額を差し引いた実質の町負担額は104,150千円と見込まれている。
本町は交通便も悪い。JR駅の構造にも問題がある。	十勝清水駅のバリアフリー化は、JRと協議しているが、優先順位があって十勝清水駅の予算化は難しい状況であり、方策としてコミュニティバスを御影駅まで運行している。
◇コミュニティバスの停留所までが遠いので、見てみると利用していない。コミュニティバスを利用している方の意見を聞いたらいいのではないかと。 ◇高齢者に限らず交通弱者がいる。議員はコミュニティバスに乗ってみるにより、なぜ人が乗らないのか問題点が見えてくる、それから政策議論すべきである。特定の店をひいきしているように見えることもあり、ルートを変更するべきで、乗りたくても乗れない状況がある。	議会の常任委員会において、実際にコミュニティバスに乗り込んで所管事務調査を行ったことがあり、その後もルート等について度々課題になっているため、議会としても高齢者の足の確保策を研究していきたい。 
ドローンについて提案したが、現状は。	ドローンは平成29年度に防災備品として購入予定であるが、貸し出しの要望もあるため、使用方法を定めて運用するよう執行側へ伝える。
見えない地域は避難勧告を出さなかったが、かえって被害が大きくなることもあり、精査してマップに反映させてほしい。	台風10号災害の被害箇所が明記された防災マップが9月に完成する予定である。（10月に配布済）
災害時、町内会の人々が避難しているところを、個人情報問題で教えてもらえないが、町内会長には教えてほしい。町内会長が誰でもわかるように腕章を作ってほしい。避難所が災害にあった時は、次の避難所を決めてほしい。	避難所等の見直しが行われ、避難伝達の際に避難所が指定されることになっており、町民が安心して暮らせるように、新たに防災マップも作成される。
プレミアム商品券は幅広く使用できない状況にある。日常生活の生鮮食品等の購入に使用できるようにしてほしい。	生鮮食品の購入にもプレミアム商品券が使用できるようにとの要望があったことを清水町商工会へ伝える。
除雪は補正を組んで多額の出費をしているが、特に通学路の除雪に問題がある。子どもにやさしいまちづくりを基本に、安価でやれる方法を模索すべきである。	除雪作業は基準により行い、通学路は優先的に対応している状況であり、子どもの通学に支障がないように最大限努力している。
今回の災害は天災か、人災か、メンテナンスをしていないのではないかと。	台風10号災害によりペケレベツ川は水位周知河川となり、浸水想定区域が示されるため、防災計画や防災マップの見直しに取り組んでいる。
営農用水の関係も含め、民間との連携が遅れたのではないかと。	営農用水はJAと連携して進めたが、通信手段の状況で連絡が遅れたこともあり、教訓として次に生かしていかなければならない。
町の持ち出しが多くなってきて、本町の総合計画は7年目を迎えるので、見直しを働きかけてほしい。財政の見直しが必要。	激甚災害の指定を受け、地方交付税措置もあって台風10号災害による総合計画の見直しは必要ないが、実施計画については、毎年見直しを行っている。
ペケレベツ川の氾濫は今回で3回目である。改修しているが同じ造りで、国のほうに申し入れをしてほしい。	ペケレベツ川の復旧工事は説明会も開催されているが、計画流量が変更され、河道拡幅や法線は正により、被災流量が流下できる設計になっている。
災害について、議会は町民を一番大事に考えてほしい。道や国へ強い意見を要望してほしい。	議会でも被害状況を調査し、平成28年10月に国へ災害対策についての意見書を提出している。
鳥インフルエンザによる産業廃棄物の地下水への影響は。	北海道において水質検査等が行われている。

報告

あなたの声をまちづくりに！  
議会報告会と町民との意見交換会

議会報告会と町民との意見交換会を5月23日（文化センター）と5月24日（御影公民館）に開催し、延べ41名の方にご出席いただきました。  
意見交換会で出された質疑や意見・提言等について、議会の回答や検討結果をまとめましたのでその一部を報告します。※報告書は清水町議会のホームページに掲載しています。

議会に対するもの（議会運営委員会で調査、検討）

質疑、意見提言等	調査、検討結果
災害時は議員個々に動くのではなく、マニュアル化したもので対応すべきであり、全員でどうするかを条例に明記しておくことも必要。議員が得た情報を的確に伝えるべきである。	災害時は執行側と情報を共有し、議会機能を維持しなければならないが、議員は立場を踏まえた活動を行う必要があり、議会の体制を含めた災害時行動マニュアル等の作成を検討する。
◇議会には多くの町民より要望があると思うが、意見交換のテーマについては、多くの町民の意見を求めるテーマを選んでほしい。 ◇テーマを設定しないほうがいい。	参加者からの要望もあってテーマを設定しての意見交換を初めて実施したが、肯定的な意見が多いため、今後は多くの町民からテーマの要望を聴取した上でテーマを決定していきたい。
一部の議員が後ろでしゃべっている。邪魔になって議論が聞こえない時があり、全員前にいたほうがいい。	時間の制約がある中、意見交換しやすいように議員は2班編成で対応しており、担当以外の議員は会場の後方で静かに傍聴するようにする。
芽室町の議員が中心となり、昨年の災害をレポートにした本が出された。清水のほうを書き残さなければならないことが多いため、前向きにポジティブに活動していただきたい。	町において「平成28年台風10号大雨災害対応報告書」が作成されるが、更に書き残すべき事項があれば、反映されるように働きかけをしていきたい。
こういう場にしても、議会の構成員の高齢化がとても気になる。“行動”できる世代を育てないと地域は持続していかなくなる。	町村議会における議員のなり手不足が問題になっており、本町においては議会活性化特別委員会を設置し、活力ある議会活動に向けた様々な調査・検討を行っている。
3年目になるかと思うが（実際は4年目）、進行も大分慣れてきたように感じる。一方で責任を追及するような意見が長く続くことが若干ながら気にかかる。場を変えて処理しないと、時間が足りなくなる。	一人の方の発言が長時間にならないように、司会進行が発言者をきちんと指名し、より多くの方が発言できるように配慮していく。

